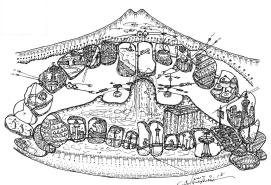
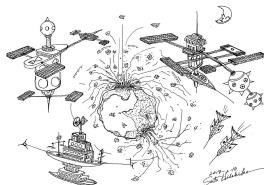
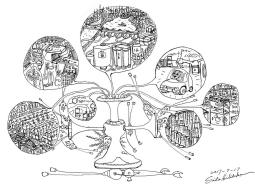


光量子エネルギーワールド

光量子エネルギー研究者
30年間の人生

地球環境破壊への危惧

光量子エネルギー技術
利用状況

理事長齋藤秀彦が描いた本会が目指すユートピア

アインシュタインの思いを実現化する (一財)光量子エネルギー学会

第1回総会が3月26日 15:00~19:00 (於) 東京都江東区のホテルイースト21東京にて
秋元司国交副大臣を招き、200名の会員が参集し開催されます

一般財団法人光量子エネルギー学会活動概要

110年前、アインシュタインは振動（エネルギーの発生要因）を発する素粒子の存在を突き止め、その物質を光（量）子（light quantum）と命名し、相対性理論と共に今日の物理学の基礎となっていました。彼の研究への思いは人類の平和でしたが、逆に原子爆弾の開発の基となり彼は晩年、自身を悔やんでおりました。私達は彼の思いを引き継ぎ、専門家と共にさらなる理論解析を進め、その理論をベースに人・地球・宇宙が持続可能な社会を目指す理念で、生命・地球環境に寄与する為の具体的なもの作りに取り組む総合的な研究開発機関です。

光量子エネルギーとは

光量子（エネルギー）の定義は個々、専門的学術分野によって多少、考え方も異なりますが、当学会においては「地上に存在する自然エネルギーと太陽（光）エネルギーとの融合から発生する超微弱振動自然エネルギー」と位置づけております。この理論の応用技術は既に35年前に健康分野からスタートしておりますが、今日では食品・環境・工業分野への導入が始まっています。特にセシウムをバリウムに転換（非除染）開発技術は今後、最も注目される地球環境保護技術であると考えます。

光量子エネルギーメカニズム

